

武漢大学レポート

M09175 縄野貴明

留学中の1ヶ月間、私は薬理学講座で研究に参加させていただきました。講座といっても日本とは異なり、何人もの教授が一つの講座にいます。私は薬理学講座の中でも月江教授の研究室に配属され、主にCYPについての研究に取り組みました。教授はじめ講座の方々は英語を使うことに積極的で、会話はすべて英語でした。とは言うものの、当然ですが中国人同士の会話は全て中国語であり、実験も全て中国語で行われたので、私が参加できたのは、CYPに関する英語の論文を読み、簡単な実験操作(ウエスタンブロットやPCR)をするに留まりました。講座のメンバーは若い学生が中心で、博士課程の学生が1人、修士課程の学生が4人、学部生で講座に出入りしている人が3、4人でした。これほどまでに大学院生が多く、また多くの学部生が講座にいるのは、中国では良い職を得るためには、博士号を取ることが必須であるからです。従って、若い大学院生が、学部生と共に実験を行うという光景をよく目にしました。彼らは、朝8時半には研究室にきて、ほぼ毎日夜10時過ぎまで実験やデータの処理などを行います。土日も何も予定がない限りは、毎週研究室にいるのです。明らかに自分を含む日本人より勤勉なその姿に、私は非常に驚きました。中には、海外で博士号を取りたいと考えている人もいます。中国人学生は周りの国の学生と比べても勤勉なため、国内で博士号を取るより、外国で取るほうが楽なことすらあるそうです。そのような学生は医学の他に卒後の留学に向けて語学(例えばフランス語)にも力を入れているようでした。語学の授業は夜や休日にあるので、ほとんどダブルスクールのようなものです。実際、彼らの語学力はとても高かったです。また、これは医学部の話ではないのですが、他の学部の学生の中には、将来の就職に備えて二つ専攻を持っている人もいます。例えば日本語と経営学です。単位さえ取りきれば、両方の学位が与えられます。武漢大学の先生にこのことについてお聞きすると、「それは逆にいうと医学に集中できていないということでもある。良いこととは限らない。」との返答が帰ってきました。しかし、武漢大学が優秀な大学であるからかもしれませんが、競争が激しいがゆえに、中国の大学生は自分自身を高めることが必要不可欠であると考えているのは間違いありません。

また、今回の留学で私が一番感じたのは、何においても中国人は非常に積極的であるということです。例えば、英語についてです。私は講座のメンバーの英語でのコミュニケーション力に驚きました。確かに文法力やリスニング力は日本の大学生の方が平均的なレベルは上かもしれませんが。講座のメンバーの中には今まで外国人と話したことがほとんどないという人も多くいました。しかし、彼らはとても積極的なのです。どんどん英語で話しかけてきます。(余談ですが、中国の大学生の英語の発音は本当に綺麗です。) 英語以外についてもそうです。どんなことにも積極的であるという精神が今の中国の発展を支えているのかなと私は感じました。

最後になりますが、今回の留学にあたってお世話になりました本学の各先生方、高橋さ

ん始め企画財務課の皆様、武漢大学の Ms.Daisy に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。